

県政映画上映会

～秋田昭和の時代 映像アーカイブ～

令和2年8月28日(金) 秋田県公文書館 3階 多目的ホール
1回目 9:20～10:20 2回目 10:50～11:50 3回目 13:30～14:30

本日のプログラム

◆ ごあいさつ ◆

◆ 作品上映 ◆

I 昭和34年「県庁舎の建設」

昭和32年8月の旧県庁舎焼失後、新しい庁舎を八橋地区に建設、昭和34年12月に完成披露するまでを描く。

II 昭和37年10月「県政ニュースNo.44」

- ① 出来秋を追って
- ② 東北六県畜産共進会
- ③ 国体旗 岡山へ

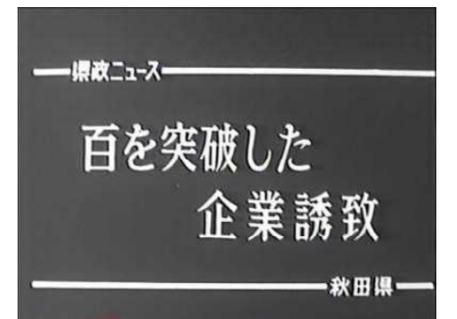
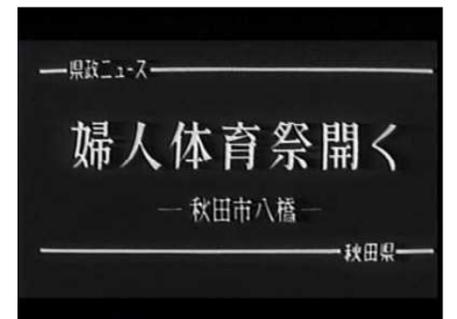
III 昭和38年9月「県政ニュースNo.50」

- ① 公聴活動さかん
(県モニター大会、一日内閣)
- ② 婦人体育祭 開く
- ③ ふるさと散歩…八森・岩館海岸

～ 休憩 ～

IV 秋田がもっと賑わっていた瞬間 スペシャル映像 5連発!

- ① 昭和32年1月「県政だより No.4」
・小野選手晴れの郷土入り
- ② 昭和38年7月「県政ニュース No.49」
・高校総合体育大会開会式
- ③ 昭和43年12月「県政ニュース No.108」
・あすをになう～県青少年の祭典
・みのった稲づくり運動
・百を突破した企業誘致
- ④ 昭和44年10月「県政ニュース No.116」
・秋田博 ひらく
- ⑤ 昭和45年12月「県政ニュース No.132」
・トピックス…角館線開通



IV 秋田がもっと賑わっていた瞬間

④ 昭和44年10月「県政ニュースNo.116」

秋田博 ひらく



県民挙げて、開幕を待ち焦がれた、秋田農業大博覧会は、8月2日オープン。その前日、県北、県南、海岸コースと分かれた宣伝隊は県内を最後のキャラバン。この日の夕方、前夜祭の会場となった県民会館に着きました。前夜祭には、およそ2,000人の人が詰めかけ、超満員。(略)

翌、8月2日午前9時、主会場、正面ゲート前で、開会式が行われました。高らかに鳴り渡るファンファーレの中で、松橋副知事が秋田農業大博覧会の開会を宣言。次いで、

主催者を代表して、実行委員会会長の小畑知事が挨拶。いよいよ、テープにハサミが入られます。特別招待者の三船敏郎、倍賞千恵子さんといった人気俳優から子供の代表者ら15人が、ミス秋田博の介添えて、ゲート前に張れた紅白のテープにハサミを入れ、秋田博の開幕を告げました。(略)

IV 秋田がもっと賑わっていた瞬間

⑤ 昭和45年12月「県政ニュースNo.132」

角館線 開通



11月1日、角館～松葉間、19.2キロの角館線が開通。角館駅で、その開通式が行われました。神事後、祝賀列車の乗務員に花束が贈られ、小畑知事が紅白のテープにハサミを入れると、一番列車は滑るようにホームを離れました。半世紀もの長い間、この日を待ち焦がれていただけに、各駅は、日の丸の小旗を打ち振る喜びの人波で、一杯でした。終点の松葉駅でも、沢山の地区住民が集まって、晴れの列車を歓迎しました。

沿道では、地元の婦人会員600人が白い造花を持って西木音頭を踊るなど、秋深い山里も、この日は終日、喜びに包まれていました。

～次回の上映会は10月30日(金)に開催予定です～

■ 秋田県公文書館 ■
〒010-0952 秋田市山王新町14-31
TEL 018-866-8301
FAX 018-866-8303
E-mail koubunshokan@pref.akita.lg.jp



～はじめに～

懐かしい昭和の秋田をご観覧ください！

秋田県内でのテレビ放送が始める前の昭和30年、県では当時人気の「映画」の幕あいに上映する広報に新たに取り組みました。「県政だより」「県政ニュース」などの名前で上映されたこの広報は、県政や地域の紹介など多くの話題を提供しました。

秋田県公文書館では、これら県政映画を保存し閲覧室で公開しておりますが、スクリーンで上映し皆様にご鑑賞いただく上映会も開催しております。

今回は、築後満60年を迎えた県庁本庁舎・議会棟の建設工事・完成当時の特別映像や、昭和30・40年代のニュース映像から、県政各分野の施策のほか、秋田がもっと賑わっていた瞬間の県内の映像を特別編集したものを上映します。



～ナレーション採録～

■ナレーションの一部を採録しました■

I 昭和34年 「県庁舎の建設」



新しい秋田県の象徴として、県民の大きな期待と関心が寄せられていた県庁舎は、昭和34年12月めでたく完成しました。さる32年8月、不慮の火災にその大半を消失した県庁舎の建設は新たに官公庁街となる秋田市八橋地区の一角を敷地として着工することになり、その建設計画が進められたのであります。

(略)

県ではこの日から、9日間新庁舎を広く一般に公開するとともに、庁舎いっぱいを使って県政展を催しましたが、20数万の人手で賑わいました。こうして新しい官公庁街に変わろうとする、秋田市山王通りの一角に県庁舎が完成。県政史上、輝かしい第一歩を記したのであります。

II 昭和37年10月「県政ニュースNo. 44」

②東北六県畜産共進会

三年に一回づつ開かれる東北六県畜産共進会が、この程、秋田市の臨海工業地内で開催されました。

国鉄土崎駅には、選り抜きの家畜が各地から、到着。会場では、付き添いの人達の部屋造りや、審査を前にして家畜の手入れなど、準備に余念がありません。

出品家畜は、乳牛、「えき」肉牛、馬、それに豚と綿羊の5種で、126頭。

この共進会を見ようと、各地から参観者が殺到しました。



個体審査、比較審査が、慎重に進められています。各種の入賞が、決まりました。「えき」肉牛で、山本郡藤里村、「かわむら」さんの、「よしかね」号が、見事、チャンピオンに選ばれました。(略)

チャンピオンベルト、メダルなどで身を飾り、入賞家畜のパレードです。第五回は、昭和40年に宮城県で開かれることに決まり、五日間にわたる日程を終えたのでした。

III 昭和38年9月「県政ニュースNo. 50」

③ふるさと散歩…八森・岩館海岸



能代市から五能線で約30分。本県の海岸沿いの最北端にある八森町は、秋田音頭の「八森、ハタハタ」で知られた町です。(略)

男鹿の男性美に比べて、女性的と言われる八森・岩館海岸は、県内でも屈指の海水浴場として知られ、訪れる人を楽しませてくれます。町の中央を流れる真瀬溪流は夏の風物詩、鮎、ヤマメの釣り場として知られ、7月のシーズンになると、遠く関東方面からも釣り人が訪れます。

初夏の若葉、秋の紅葉の美しさは、十和田の奥入瀬をしのぐとも言われています。

毎年、8月1日に行われるこの町の名物、「神輿の滝浴び」。また、八森町は温泉の開発にも目を向けるなど、十和田、男鹿に次ぐ観光地を目指して、発展しようとしています。

IV 秋田がもっと賑わっていた瞬間

①昭和32年1月「県政だよりNo. 4」

小野選手晴れの郷土入り



メルボルンオリンピックで優勝した小野選手は、12月17日夜、歓迎のうすまく秋田駅に到着。この日は、小野選手のほかに、メルボルン日本体操選手団も来県しました。なかでも、本県の生んだ金メダル獲得者、小野選手に寄せる郷土の喜びは大きく、県庁を訪れた小野選手に知事からお祝いの記念品が贈られました。次いで待望の公開演技は、満員の観衆で埋まった秋田市山王体育館で開催。まず胸に日の丸、揃いのブレザーコートで入場した選手団に、県と市からそれぞれ

歓迎の花束が贈られました。かくて、豪快華麗な演技が繰り広げられましたが、まず小野選手の平行棒の妙技。竹本選手得意の吊環(つり輪)。女子池田選手による段違い平行棒。同じく女子、関選手の平均台。さらにあん馬における小野選手の完璧な演技。最後は金メダルに輝く小野選手の独壇場、鉄棒。かくて公開演技はメルボルンオリンピックの感激を秋田に再現、盛会のうちに幕を閉じました。